

背景画像:コクヨ ノートブック(昭和24年頃)

令和2年度秋季特別展

紙製品への思い

— 国産の礎とコクヨの現在 —

令和2年10月29日(木)～12月13日(日) 10:00～17:00 (入館は16:30まで)

休館日：月・火曜日 ※11月は毎日開館

入館料：一般300円(250円)小・中学生150円(100円)※①内は20名以上の団体料金

無料入館日：11月21日(土)～23日(月・祝)〈関西文化の日〉

特別協力：コクヨ株式会社 (株)コクヨ工業滋賀

後援：朝日新聞大津総局 中日新聞社 産経新聞社 滋賀報知新聞社
京都新聞 毎日新聞大津支局 読売新聞大津支局 **BSF びわ湖放送**



▲黒田国光堂 中道工場
洋式帳簿製本部 (昭和初期)

ご観覧にあたり、
新型コロナウイルス感染予防・
拡散防止に伴う皆様のご理解と
ご協力をお願いします。

- 発熱・咳込み等の症状がある方は観覧をお控えください。
- マスクの持参・着用をお願いします。
- 手洗い・手指のアルコール消毒にご協力ください。

(株)コクヨ工業滋賀

愛荘町上蚊野にあるコクヨ工業滋賀では、コクヨグループの紙製品基幹工場として、年間1億冊以上を販売する「キャンパスノート」をはじめ、伝票、コピー用紙などを生産しています。

モノづくりへのこだわりとして、琵琶湖のヨシを活用したエコ文具シリーズ「REEDEN(リエデン)」の企画開発に取り組んでいるほか、「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」の事務局として琵琶湖の環境保全活動を行っています。



会期中、びわこ文具(一部)を
博物館で販売しています。

エデンに還そう
エデンに帰る。

REEDEN



展覧会図録

- 250部 限定頒布
- 頒布価格 1,400円

学芸員による展示解説

日時：11月15日(日)・29日(日)
10:30～11:00 / 14:00～14:30

場所：歴史文化博物館 企画展示室
参加費：無料(要入館券)

愛荘町立歴史文化博物館

(金剛輪寺参道隣)

〒529-1202 滋賀県愛知郡愛荘町松尾寺878番地

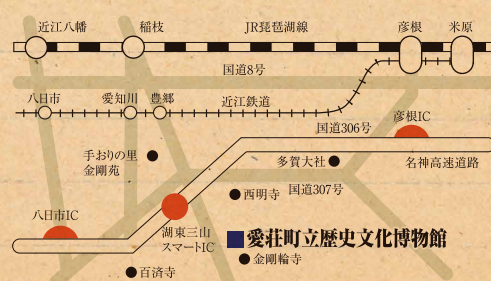
TEL.0749(37)4500 FAX.0749(37)4520

http://www.town.aisho.shiga.jp/hakubutsukan/

【電車】JR稲枝駅、近江鉄道愛知川駅・豊郷駅から予約型乗合タクシー「愛のりタクシーあいしょう」
金剛輪寺停留所下車(詳細は愛荘町ホームページを参照)

※「愛のりタクシーあいしょう」の予約先:近江タクシー(株)彦根営業所 Tel.0749-22-1111

【自動車】名神「湖東三山スマートIC」より1分



我が国において今日の既成紙製品が登場したのは、外国から洋紙や既製品を輸入し、洋式帳簿として販売し始めた明治の初め頃とされています。しかしながら、明治末期になっても一般の会社や商店では「大福帳」などのように、束ねた和紙に厚めの表紙を付け、こよりで綴っただけの帳面が使われていました。

精神により改良を重ねられた様々な紙製品は、時代を超えて優良な品質を求める多くの人々に受け入れられます。そして「国産(コクヨ)」の商標名どおり、黒田の郷里である越中富山、ひいては日本の各所として評価され、今日に至る文房具やオフィス家具、事務機器に代表される「コクヨブランド」の礎が築き上げられました。

大正時代になり、経営の近代化が急速に進むと同時に洋式帳簿が急速に普及しますが、その前後、明治38年(1905)にコクヨ株式会社の創業者である黒田善太郎(1879～1966)は、「黒田表紙店」を創業し、大正2年(1913)には洋式帳簿の既製品化を開始しました。天性工夫を好む黒田の企業家

展覧会構成

特集 / コクヨ創業者とキャンパスノート (エントランスロビー展示)

- 第1章 黒田国光堂と「国産」
- 第2章 国産の繁栄と紙製品
- 第3章 国産紙製品受難の時
- 第4章 再建と紙製品製造業の確立
- 特集2 紙製品工場の今 —コクヨ工業滋賀のモノづくり—



特約店看板(山村帳簿店) 昭和時代



洋式帳簿 昭和8年頃



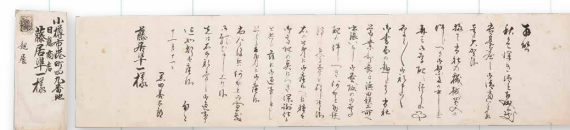
カルトン 昭和時代



黒田国光堂社旗 昭和9年頃



便箋「報国」 昭和15年頃



黒田善太郎書簡 藤居準一宛 昭和22年頃



戦国メッセージカード(びわこ文具)



びわこテンプレート(びわこ文具)



厚子 昭和9年頃